

## 文学研究科入試問題 解答例・出題意図

### 心理学領域 <博士課程後期課程・正規学生(一般)>

#### 【専門外国語科目】

##### ■解答例

###### 【問Ⅰ】

受験生各自の研究内容に依存するが、解答例として以下に1つあげておく。

The aim of my master's thesis was to investigate personality similarity between dogs and their owners. I conducted both paper-based and web-based surveys targeting households currently keeping dogs, using the Big Five personality scale to assess both human and dog personalities. The paper-based survey showed significant positive correlations in Agreeableness, Neuroticism, and Conscientiousness, while the web-based survey revealed significant positive correlations in all five subscales. These correlations were not affected by the dog's or owner's age, dog's sex, or length of ownership. To examine the objectivity of owner ratings, dog trainers also evaluated the dogs. Results suggested that trainers perceived traits like Extraversion and Neuroticism as opposites, indicating a different perspective from owners. Overall, the findings suggest that dogs and their owners tend to have similar personalities, likely because owners choose dogs resembling themselves from the outset.

###### 【問Ⅱ】

省略

##### ■出題意図

###### 【問Ⅰ】

心理学分野では国際会議や国際誌で研究成果を発表することが期待されています。この問題は、自分自身の研究を英文で簡潔に説明できる語学力を確認するものです。

###### 【問Ⅱ】

心理学分野では英文論文を多数読むことが期待されています。この問題は、論文要旨を速読して内容を把握する力を確認するものです。

## 【専門基礎科目】

### ■解答例

#### 【問Ⅰ】

①課題結果(成功・失敗)×原因帰属の種類(能力・やり方)を独立変数、自己効力感を従属変数とした参加者間2要因実験計画(2×2)の参加者間2要因分散分析である。2つの独立変数それぞれの主効果と交互作用を検討でき、仮説は交互作用に関するものだから。

②(ア) a:成功・能力帰属、b:成功・やり方帰属、c:失敗・能力帰属、d:失敗・やり方帰属(イ)略

③交互作用が認められた場合、1つの要因の効果はもう1つの要因によって調整されているが、具体的にどの水準の組み合わせにそれが見られたのかはまだ理解できないため。仮説に基づけば、失敗の場合に特に2つの原因帰属(能力・やり方)の水準差が認められるはずなので、課題結果ごとに2つの原因帰属(能力・やり方)の水準差を比較することが適切である。

④様々考えられるが、たとえば以下の諸点に関する言及が必要である。

- ・操作前(ベースライン時)の自己効力感の測定・確認
- ・2つの独立変数の操作チェックの確認
- ・サンプルサイズ設計への言及
- ・課題そのもの並びに課題の難易度、それぞれの妥当性の確認

#### 【問Ⅱ】

受験生ごとに異なるが、一例をあげれば以下の通り。

人間が報酬の大きさや確率に基づいてどのように行動を選択するかを、実験課題を用いて検討し、意思決定に関わる心理的メカニズムを明らかにすることを目的とする研究。

My study aims to investigate how people make behavioral choices based on reward magnitude and probability, using experimental tasks to reveal the underlying psychological mechanisms of decision-making.

#### 【問Ⅲ】

20項目と多いため、省略。各用語や人名の解答例は心理学辞典(例えば、『有斐閣 現代心理学辞典』、『誠信 心理学辞典[新版]』)などを参考にするとよい。

### ■出題意図

#### 【問Ⅰ】

心理学統計法・研究法の基礎的理解を中心に、実習や演習等を通して身につく心理学研究で用いられる論理と、問題の実証方法を策定・批判する能力について問う問題である。本問題は単に心理学統計における公式の適用方法やその数式を覚えているか、という点に重きを置いてはいない。仮説とそれを確かめるために実施する研究計画・実験デザインから、データの統計的分析、結果の実質的な解釈、そして研究の批判的吟味にいたるまでの心理学研究における一連のプロセスを、首尾一貫した論理性を確保しながら理解し、それを一つの具体例にまで適用することができるまで熟練しているのか、を総合

的に評価することに主眼がある。

**【問Ⅱ】**

受験願書に記された研究テーマを本当に理解しているかどうかを確かめる設問です（受験願書は他者が執筆することも可能なため）。

**【問Ⅲ】**

専門用語および学者の業績を簡潔に回答する能力を見る設問です。